加古川シネマクラブニュース Vol.125　2023.03.08号

３月例会『心の傷を癒すということ』

阪神･淡路大震災から 28 年。総会は 4 月 22 日(土)。

例会のお知らせ

【例会作品データ】

■タイトル／『心の傷を癒すということ』

■監督／安達もじり

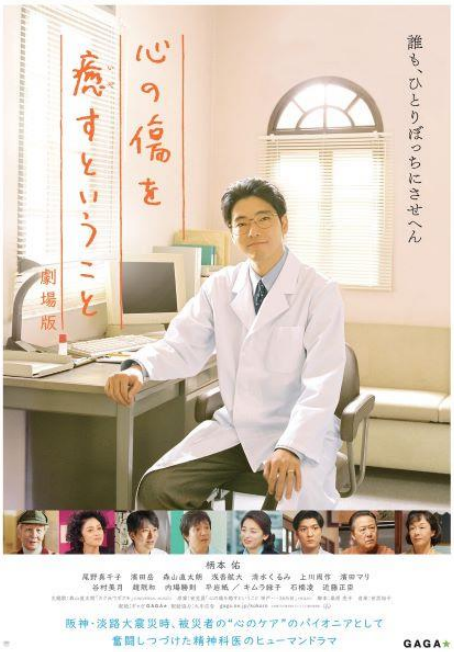
■原作／安克昌『心の傷を癒すということ 神戸…365日』(作品社)

■出演／柄本佑、尾野真千子、濱田岳、森山直太朗、浅香航大、清水くるみ、上川周作、濱田マリ、谷村美月、趙民和、内場勝則、平岩紙、キムラ緑子、石橋凌、近藤正臣

■データ／2020年、日本、115分

■ジャンル／ヒューマンドラマ、災害

■解説／1995年。阪神・淡路大震災時、自らも被災しながらも被災者の「心のケア」に奔走した若き精神科医・安克昌氏。当時の記録を綴った 同氏の著書を原案として、NHKでドラマ化された本編を再編集。阪神・淡路大震災時、被災者の心のケアに奔走した実在の精神科医・安克昌氏の著書「心の傷を癒すということ　神戸…365日」を原案にしたNHKドラマ「心の傷を癒すということ」の劇場版。2020年1月から放送されたテレビ版全4話を再編集した。安和隆は自身のルーツが韓国にあることを幼少時に知って以来、自分は何者なのか模索し続けてきた。やがて人の心に関心を持つようになった彼は、父に猛反対されながらも精神科医の道へと進む。映画館で出会った終子と結婚し、第一子も生まれて幸せな日々を送っていたある日、神戸の街を大震災が襲う。和隆は避難所で被災者たちの声に耳を傾け、心の傷に苦しむ人々に寄り添い続ける。柄本佑が主演を務め、尾野真千子、石橋凌、森山直太朗が共演。



定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2023 年度の定例総会を開催します。1 年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまに、出席くださるようお知らせいたします。

1　名称　2023 年度加古川シネマクラブ定例総会

2　日時　4 月 22 日(土)午後 4 時から

3　場所　加古川珈琲(粟津マックスバリュー前)

4　内容　(1) 2022 年度事業報告に関すること
(2) 2022 年度決算報告に関すること
(3) 2023 年度役員の選任に関すること
(4) 2023 年度事業計画に関すること
(5) 2023 年度予算に関すること

5　議案　現在準備中です。事前に確認できるよう 4 月 15 日頃から 22 日まで加古川シネマクラブのホームページ上に掲載します。

6　参加方法　直接会場にお集まりください。今回は、新型コロナウィルス感染症予防と会場の都合で、直接参加のほか同じ意見を持つ出席者に委任状による委任することもお考えください。

7　その他　当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することで、出席する会員に議決等を委任できます。

私の映画ＫＡＮ『君を想い、バスに乗る』

ひとめで「観たい！」と思ったのは主演が**ティモシー･スポール**だったから！1 月例会の**『輝ける人生』**でヒロインの相手役チャーリーを演じた俳優で、**『ハリーポッター』**シリーズでのピーター･ペティグリー役とのあまりの違いに驚かされた。

この作品では最愛の妻を亡くした 90 歳のトムを(実年齢より 30 歳近く上！)特殊メイクなしで演じ、英国ブリテン島の北の端から南西の端ランズエンドまでを高齢者用無料バス乗車券でローカルバスを乗り継いで旅をします。行く先々で様々な人と出会い、トラブルに巻き込まれ、旅が進むにつれてトムと妻メアリーの人生となぜランズエンドを目指すのかが明らかになっていきます。印象的だったのが、「イングランド」にばっさり切り捨てられたトムにウクライナ移民の人たちが手を差し伸べる場面。ウクライナの今を想わずにはいられませんでした。(T)

【作品データ】

■**タイトル／君を想い、バスに乗る**
(**原題**：The Last Bus)
■**監督／ギリーズ・マッキノン**
■**出演／ティモシー・スポール、フィリス・ローガン**
■**データ**／2021 年、イギリス、86 分
■**ジャンル**／ドラマ、ロードムービー

「映画大学」参加報告

9 月 23 日から 25 日まで**「全国映連第 49 回映画大学 in 岡山」**に参加してきました！コロナの影響で 2 年連続中止だった映画大学が無事に開催され、加古川シネマクラブからは 3 名が、お隣の明石シネマクラブからも 3 名が参加しました。総参加数は 80～90 数名だったと聞きました。全 7 講義 2 泊 3 日の行程で、私は 6 講義を受けました。

楽しみにしていたのは、**『雪子さんの足音』**の上映会もあった（私は間に合わず観ていませんが）監督の**浜野佐知**さんの講義でした。数 10 年前に図書館で偶然手にした監督の著作**『女が映画を作るとき』**を読み、ピンク映画からデビューした苦労人の浜野佐知さんの講義を生で聞きたかったのです。気さくで、やわらかな、またひとりツッコミてきな話方に、これが浜野佐知監督か～と、ひとりで喜んでいました。

第 4 講義**「ハリウッドとアジア系」（朝日新聞記者 籐えりか）**、第 6 講義**「労働者運動にこだわる理由」（映画監督 土屋トカチ）**は面白かったです！ロサンゼルス支局におられた籐えりかさんが取材をもとに感じられたこと、また、ハリウッドで活躍中の在日韓国人俳優のレポートは聞きごたえがありました。講義の前に上映された土屋トカチ監督の**『アリ地獄天国』**（関東の引っ越し会社 VS 一人の労働者＋労働組合を追ったドキュメンタリー映画）はこんな酷い会社許さん！と怒りつつ現実を突きつけられて衝撃を受けました。

映画大学のパンフレットの副題に【映画製作に携わる方々から学ぶ新しい発見と感動に満ちた貴重な 3 日間！】とありますが、まさにそのとおりの素敵な 3 日間でした！来年は記念すべき第 50 回（予定開催地は東京）、ぜひ!!　（せん）

前回の例会報告

1 月 27 日（金）の 1 月例会では、アジア初の火星周回軌道に探査機を到達させたインドの実話を基にした作品。家事からひらめいた節約アイデアでプロジェクトを成功に導いた女性スタッフの活躍などを描いたインド映画、**『ミッション・マンガルー崖っぷちチームの火星打上げ計画ー』**を鑑賞しました。会員 60 名の参加　新入会員 2 名　明石シネマクラブ会員 7 名でした。

明石シネマクラブ例会情報

■**名称／第 76 回例会『鉄道運転士の花束』**
（2016 年、セルビア・クロアチア合作、85 分）
■**監督／ミロシュ・ラドビッチ**
■**出演者／ラザル・リストフスキー、ペータル・コラッチ、ミリャナ・カラノビッチ**
■**ジャンル／ドラマ、コメディ**
■**ストーリー**／定年間近の鉄道運転士が同じ仕事に就いた息子を一人前の運転士に仕立て上げる姿を、ブラックユーモアを交えて描いたセルビア映画。
■**日時／4 月 21 日（金）①PM2:00ー、②PM4:30ー、③PM7:00ー**
■**場所／アスピア明石 9 階子午線ホール**（ＪＲ明石駅東徒歩 5 分）
■**目的・内容**／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。
■**受付**／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの（氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など）を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする
■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662（金沢まで）

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ　〒675-0101
加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方
TEL 090-9283-0435　FAX 079-425-4499 ※
E-MAIL　cinemaclub@nifty.com
http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/
※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 120 人（1 月 27 日現在）